

2022年度 第1回 地方独立行政法人明石市立市民病院評価委員会 議事録

- 1 日 時 2022年7月5日(火)14時00分から16時20分
- 2 場 所 明石市立市民病院本館2階 講義室
- 3 出席者 (委員)
明石純委員長
日下孝明副委員長
中田精三委員
工藤美子委員
武田英彦委員
- 4 会議次第 (1) 開会
(2) 議事
 - ・2022年度スケジュール等について
 - ・2021事業年度及び第3期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績報告書について(報告)
 - ・2021年度 財務諸表等について(報告)(3) その他(連絡事項)
(4) 閉会

<資料>

- 資料1…評価委員会 2022年度スケジュール及び評価担当について
- 資料2…2021事業年度に係る業務実績報告書
- 資料3…第3期中期目標期間に係る業務中間報告書
- 資料4…2021年度財務諸表等
- 資料5…2021年度事業報告書
- 資料6…監査報告書
- 資料7…中期計画・年度計画における実績値比較の推移(表・グラフ)
- 参考資料…業務実績に関する評価実施要領

1. 開会	開会の宣言 ・明石市統括理事あいさつ ・理事長あいさつ
2. 議事 委員長	2022 年度のスケジュール等についての説明をお願いします。
市事務局	資料 1 2022 年度スケジュール及び評価担当について説明
委員長	先程の説明について、質問があればお願いします。
	質問なし
委員長	2021 事業年度及び第 3 期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績報告書、2021 年度財務諸表等について法人からの説明をお願いします。
法人	資料 2～6 2021 事業年度及び第 3 期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績（法人の自己評価）、財務諸表等について説明。
委員長	この実績については、コロナの影響が一番のポイントになると考える。法人の説明を受けて、大まかにまとめると、コロナの影響を除外すると仮定し、裸の数字をみると、約 8 億 4 千万円の赤字。一方で、コロナ関係の診療報酬上の加算や補助金等で約 17 億円の収入があったため、結果としては約 8 億数千万円の経常利益ということになる。 法人からの説明について各委員から質問及び確認事項等があれば発言をお願いします。
委員	公立病院としてはコロナを診なければならない。コロナを含め、診療を行い、その結果どうであったかで考える必要がある。
委員	何点か伺いたい。救急について頑張っておられ、受入れ数が上がっている状況について、どのように分析しているか。 また、ポリファーマシーの対策や、休日リハビリテーションの構築など、加算を取るための取り組みについてはどうか。 最後に、コロナ診療以外の従前からの取り組みを、どのように構築しようとしているかについてお聞きしたい。
法人	まず、救急に関して、コロナ禍以前は年間 3,300～3,400 件だったものが 2,300 件程度へ、令和 3 年度は少し改善して 2,700 件程度となっている。発熱患者は、入院前にコロナ検査のため、個室対応が必要となることや、重症患者の受入れが難しい状況が続いたことによる影響である。PCR 検査を抗原検査に代えて、円滑になったのが、ようやくここ最近のことである。
委員	受入れ件数は、改善傾向はあるのか。
法人	数については、改善傾向はある。ポリファーマシーについては、国の政策的なところもあり、数年前から取り組んでいる。
委員	報告書を見ると、休日リハビリテーションについても、始めているのか。

法人	ここ2, 3年、人材雇用によって、スタッフが充実してきたため、取り組めるようになってきた。
委員	<p>財務関係の部分について質問したい。コロナの影響については、会計年度中に起きたことなので、会計上あくまで結果として受け止め、ストレートに発生主義に基づいて評価するしかない。その実績を翌年度以降の予算や、次期中期計画に反映させるなど、利用していけばよい。全体の評価としてはコロナを含めて考えるということでもいいのではないかな。</p> <p>収支の改善に関する項目の法人の自己評価が3から4に上がっており、その点については妥当である。</p> <p>一方、人件費における人事や給与のメリハリや、原価計算については、法人はまだ試行錯誤の中にあるのではないかな。</p>
委員長	<p>補助金は補助金で。医業収益は医業収益で。トータルとして考えればいいということで理解した。</p> <p>原価計算や人事評価が分かりづらいというのは具体的には？</p>
委員	例えば、離職率については、低いとは言えない印象がある。
委員長	看護師の離職率が8%台というのは、一般的には高くない。むしろ低い方だと思うがどうか。
委員	‘なぜ離職するのか’という点については、きっちり分析する必要がある。
法人	看護師の離職については、2020年は、コロナ禍の影響があったが、この数年でみると‘患者の命を守れないのではないかな’という適応能力に対する不安や、精神的な不安等による離職が10~17%を占める。また、違うキャリアを目指しての離職もある。コロナ禍のなか、新人同士で話す機会も少ないため、サポート側も新人看護師の異変に気をつけたり、フォローアップ研修を行なうほか、外部委託契約でメンタルケア受診ができるような体制をとっている。
委員長	他に何かないかな。
委員	市民病院の立場では断れない医療がここ2~3年続いており、対応することで赤字になるという事は起こって当然。それに対して、国の補償が出たというだけのこと。現在の空床補償は9月末までという話があり、その後の医療の状況がどうなるかが一番大切である。
委員長	結果の数字の良し悪しではなく、数字の分析をしておくことは必要なのではないかと考えている。今後、再整備の計画となると、長期の収支計画が必要になるが、第3期では4年間のうち3年間はコロナの影響を受けた数字になるため、一旦、コロナの影響を除外した裸の数字を把握して、それをベースにすることで、今後の収支計画が明確になってくると考える。
法人	先ほど言われた原価計算について。一般医療から高度医療までレートが格段に違うため、平均的なパフォーマンスも測りにくく、原価計算により

	<p>医師を評価するのは難しい。医師を増やすために成果手当を出してはいるが、時代に合った見直しに向けて議論を始めたところである。</p>
委員	<p>人材を引き留め、看護師や医師を含め、うまく人材活用できるよう‘見直し’は行っていただく必要がある。</p>
委員長	<p>他に何かあるか。</p>
委員	<p>分析は大切。2年前コロナ禍当初、自院でも赤字が発生し危惧したが、補助金で何とか耐えた。公的医療は、患者を選ばず法定価格の適用を受けるといことが大前提となる。まずは病院が成り立ち、うまく経営していけるということが重要。</p>
委員長	<p>従来の基準であれば赤字であるということ、悪いと言っているわけではなく、分析の必要があるということ。</p> <p>行政側としても、9月末で補助金がなくなった後の経営は大丈夫なのか懸念する筈で、税金を使う側としても数字をきっちりと出しておく必要があると考えている。</p>
法人	<p>数字をおさえておかないといけないことは間違いない。アフターコロナにおいて、‘病院をどう元に戻すのか’ということを考えていく必要があり、今後の診療体制について考えるチャンスであると捉えている。例えば、外来が減っているが、各科外来を増やしていくのか、単価の高い外来を中心にして、外来は入院の入り口として入院や手術部門を手厚くするのかなど、方針を見直す良い機会だと考える。</p>
委員長	<p>一点だけ質問がある。地域包括ケア病棟に関する市民病院の位置づけについて。この4月に診療報酬が改定され、一般病棟からの転棟が6割以上であれば減算ということになった。今後、地域からの入院を増やす必要がある中で、サブアキュートの役割について2021年度の取り組み状況はどうであったか。多くの公立病院とは異なり、市民病院は、早くから地域と連携するという目標をもって地域包括ケア病棟を設け、取り組みを進めてきたということをお聞きしたい。</p>
法人	<p>診療報酬の改定に対しては、4月から即対応している。算定にかかる計算式が少し異なるかもしれないが、一般病棟からの転棟は、4月41%、5月42.3%、6月50.8%と6割を切り、基準をクリアしている。</p>
法人	<p>当初、外からのサブアキュートでの受け入れは10%程度だったが、基準改定後、即、看護部及び地域連携室が対応し、外からの入院を直接地域包括ケア病棟で受け入れるよう、体制の再構築や、地域連携室による介護事業所への営業、レスパイトの積極的受け入れなどで数字を上げてきた。</p>
委員長	<p>単なる‘逃げ場所’ではなく、昨年度までの病院の位置づけとして‘地域のための病院’という土壌があったからこそ早期に実現したと思う。</p> <p>他に質問がなければ、審議はここで終わりにしたい。</p>

3. その他 市事務局	資料6について、説明。 次回評価委員会の開催案内及び、評価のとりまとめ方法について説明。
4. 閉会	以上を以て、第1回評価委員会を終了する。